



からしだね

キリストの受難

カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭：デニス・マックゴワン神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) :

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/

2016年
5月号 (516号)



大江天主堂(熊本県天草市天草町大江1782) 天主堂の紹介文は9ページ。

評議会議長の挨拶	2	改訂されたミサの式次第	6	青年会の参加者募集	8
熊本地震被災者に手を	2	デニス神父はリハビリ中	6	大阪カナの会パーティー	8
洗礼の恵みを喜び歌う	3	テゼの歌に楽器演奏	6	表紙の大江天主堂	9
5月ガラスケースの言葉	3	さいころの会 発足	7	黙想会のお知らせ	9
洗礼を受けて	4	信者の池田教会再訪問	7		
ダウン障害を持つ子から	5	中高生と青年の交流	8		

表紙写真の撮影:神崎

※聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です。完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

遣わされた場所で一緒に働きましょう

2016年度評議会議長

御復活祭を経て主の御昇天を待ち望んでいます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

「わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。…わたしは言った、『災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た。』するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。彼はわたしの口に火を触れさせて言った。『見よ、これがあなたの唇に触れたのであなたの咎は取り去られ、罪は赦された。』 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』 わたしは言った。『わたしがおこにおります。わたしを遣わしてください。』」 イザ6. 1、5～8。

新年度の初めにご挨拶申し上げます。カトリック池田教会評議会の議長として選任されたことに当たっては、無力で申し訳ありませんが皆様の信頼をいただいてこの重要な役割を託されたことがとても光栄だと思っております。主の御助に頼りながら頑張りたいと思います。私のために祈ってください。

私は1963年にプロテスタントの家族のもとで生まれました。中学時代までは子供なりに熱心な信者でした。しかし、その後世間の影響を受けて、賢い人はそんなおとぎ話みたいな奇跡など信じるものかと思ひ、教会に出ることがめんどくさく感じて信仰を捨てました。

それから高校でいい成績をとって、いい大学に入って、自由になったつもりでキリストの真反対方向

に走ったわたしは、世間の目から見て恵まれた生き方にだんだんと自信を失って訳が分からなくなりました。結局、夢の大学を途中で辞めて、自分の将来が真っ暗なまま田舎の叔父の農場に逃げて一年間近く悩みました。

その間、ただの好奇心で初めてカトリック教会を訪れてミサを経験しました。初めてのミサを見て何かを感じました。数日後、何年かぶりに私は心から祈りました。「神様、何もわかりませんが、正しい道を示してください。」答えは心に響きました。「私の子イエスを信頼しなさい。」

このようにして私がカトリックのキリスト信者になりました。その後カトリックの宗教を学び始めていろいろ大変な思いをしました。30年間以上経ってもまだまだ未熟で申し訳ありません。しかし、私のために十字架で亡くなられご復活されたキリスト・イエスとその慈悲深い御母マリア様の愛を知り、罪から救われて、いつも喜んで感謝しています。

上のイザヤ書の引用は、「わたしはイザヤだ」と自慢するつもりではなく、わたしたちキリスト信者は皆イザヤのように汚れた唇の人で、汚れた唇の民の中に住んでいる人であるのに、神様の御座を見せられ、主イエスのご受難の火を通して罪が赦されましたと言いたかったのです。イザヤと同じように主の御声を聞いて、遣わされた場所で一緒に働きましょう。

皆様がいつも主の御手の中にとどまるようにお祈り申し上げます。 2016年4月16日

熊本地震被災者に手を差しのべよう

4月14日以降、ご承知のとおり熊本県・大分県では断続的に地震が発生しています。終息のメドは立ってないようです。死者50名を越える大きな被害が出ています。池田教会にも被災地に縁の深い方々がおおいでです。被災地を助けましょう。愛する人や家を失った人びとに寄り添う心を示しましょう。阪神大震災のとき全国から差しのべられた救援の手を思い出してください。今度は池田のわれわれが助ける番です。皆様からのご支援をお願いいたします。

子たちよ、言葉や口先でなく、行いをもって誠実に

愛しあおう。これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できる、たとえ心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてを御存知だからです。(ヨハネの手紙I 3:18-20)

広報委員会

主の復活を祝い、洗礼の恵みを喜び祝おう



主の晩さんの夕べ

復活祭(3/27)を前にした3日間では、聖木曜日の主の晩さんの夕べ(写真左)と聖金曜日の主の受難を経て(写真右)、聖土曜日の復活徹夜祭において下写真の四名は畠神父(中央)から入信の秘跡(水を注がれ、塗油され、ろうそくの授与、白衣の授与、聖体拝領)受けたのです。洗礼名(霊名)も頂きました。

おめでとうございます！



主の受難



5月のガラスケースの言葉
 ことばは、あなたの近くにあり、
 あなたの口、あなたの心にある。
 ロマ 10の8 - 13

洗礼を受けて

ユスチノ 下村

マリア・テレサ 沖

この3月26日の復活徹夜祭で洗礼を受けることができました、沖佳子です。

洗礼を受ける直前、「こんな私が洗礼を受けてもいいのか」ととても悩みましたが、畠神父様や村嶋お母様ほかたくさんの方々に支えていただき、この度洗礼を受けることができました。

幼い頃からシスターに囲まれて自然とカトリックの道を選ぶことができたことを心から嬉しく思っております。

持病がありなかなか望むように教会でのミサに行くことができない現状ではありますが、日々の祈りと感謝を忘れずにいたいと思います。神様のお導きに自分を委ねて、神様が望まれる通りに生きていきたいと心から望みます。洗礼名のマリア・テレサの通り、マリア様のような素直な心、マザーテレサのような大きな愛を持つ信者になりたいと思います。

池田カトリック教会の皆様となかなかゆっくりとお目にかかる機会がありませんが、どうぞよろしく願い申し上げます。

この場をお借りして、いつも私のスケジュールにお忙しい中お時間を作ってくださいました畠神父様、そして急なお願いを快く引き受けてくださった村嶋お母様に心からの感謝を申し上げます。畠神父様、村嶋お母様、島上先生、橋口さん、母校聖母被昇天学院修道院のシスター方の支えがなければこの喜ばしい日を迎えることができなかったと思います。心から感謝申し上げます。

使徒パウロ J. O.

信者としてミサに与るようになりました。洗礼を受けたから「信者」で、ミサに「与れる」ようになった？それでは、この10年、20年は何者で、ミサの場にいることは何だったのでしょうか。御聖体をいただくようになりました。キリストの体の一部になれるのは、10年後、20年後？それとも今度は30年かかる？答唱詩編を歌うときに、後ろめたさを感じなくてすむようになりました。実はこれがいちばんありがたいです。これからもよろしく願いいたします。

この度、復活徹夜祭にて洗礼を受けさせていただきました下村です。沢山のの方々からの洗礼のお祝いの品、お言葉をいただき誠にありがとうございました。

職業は現在、川西市の老人入居施設にて介護職をしております。キリスト教に関心を持ったきっかけは入居者様にクリスチャンの方がおられ、居室に飾られてる十字架などを拝見し、なんとなくクリスチャンに惹かれ興味を持つようになりました。それからというもの何かに導かれるようにカトリックや聖書に興味を持ち昨年6月から池田教会のアルファコースに参加させていただくようになりました。

一昨年ですが職場の施設のクリスチャンの入居者のS様がお逝去されました。後で知ったのですが、S様は池田教会の信者さんでこの池田教会でお葬式をされたという事を聞き何かとても不思議なご縁を感じました。職業柄、死というものに向き合う機会が多い仕事です。

看取りの方やお亡くなりになった方に対して、今迄、避けてしまう気持ちに負い目を感じていましたが、これからは慈しみの心を持ち祈って差し上げたいと思います。

また、これからの自分の人生においてとても相応しい信仰が持てた事を神さまを通じて教会でお知り合いになった方々のご縁に深く感謝しております。

これからも、どうぞよろしくお願い致します。

マキシミアノ・マリア・コルベ 橋口

3月26日の復活徹夜祭に洗礼を受けた事は、今思えば偶然じゃなく必然だったと思います。去年の5月にテレビで大浦天主堂の聖母マリア像を見てから始まります。過去に、何度もマリア像やイエス・キリストの絵を見た事はありましたが、特に心に残る事も無かったのですが、テレビで見た聖母マリア様は、深く心に残っていて、教会へ足を運ぶ行動を起こしていました。その頃の私は、『迷子だった子供が母親を見つけた』感覚です。聖母マリア様に導かれるように教会に行き、初めてのミサに参加する時に『畠神父様、松本神父様、デニス神父様と出会い』、『松本神父様から聖書を頂き』、『アルファ・コースの松下さんに出会った事』、主日のミサで5月は、ロザリオの祈りをしてミサが始まるのも、聖母マリア様の導きを強く感じました。途中で入院や手術もあり病室のベッドでは、いつもロザリオの祈りをし、私の聖母マリア様への愛は、そのままイエス様への愛に繋がりと、アツバ、父への愛にも繋がりました。

洗礼を受ける決心をし、畠 神父様の洗礼の為の勉強会に参加する事で、『聖霊による洗礼』の事を学んだ事で、ミサ中に聖霊を感じる様になりました。聖霊を感じる様になると『自分は病で苦しんでいる』事も忘れるくらい、身体の調子も良くなりました。

実は洗礼前に、私の病気は新たに発症し大学病院で、私が緊急事態になっても即対応できるように体制を整える事態になりました。お医者さんに告知された時は、『私の人生は終わったな』と思いましたが、不思議な事に『大丈夫』と、すぐ思えました。その『大丈夫』と感じた自信が私の進むべき道も示されました。私の病気の状態、進むべき道の事を、畠 神父様に伝えました。畠 神父様は、私の進みたい道に関して反対する事もなく、アドバイスをしていただき、今は、その時を迎えるための準備をしています。病気の不安がありつつ、畠 神父様の下で洗礼に向けての勉強を続けました。

また、御受難会の黙想会にも行き、指導していただいたウオード神父様に言われた言葉は『洗礼を受ける事は、イエスと兄弟になり友になるんだよ』『そして私とも。ね。』泣きそうになるほど嬉しい言葉でした。心の中で『父よ』と言いました。それは、私の中でウオード神父様を介して、『アツバ、父からの祝福』のようでした。

私の洗礼名『マキシミアノ・マリア・コルベ』は松本 神父様の提案で決めました。最初、男性は『マリア』の名は付けられないな…。と思別々の聖人名を考えてましたが、松本 神父様に相談したら『マキシミアノ・マリア・コルベ』はどうですか？と言われ『これだ！！』と思決めました。そして、いよいよ、洗礼式当日になりました。

洗礼式では、今まで経験した事のないほど、聖霊に注がれる感じがして、その後、身体中から溢れるほど力がみなぎり、倒れないように踏ん張りました。これが畠 神父様に教わった『聖霊による洗礼』かと驚きそのまま洗礼式は終了しました。

その後はいつもと同じ生活になり、検査結果を聞きに病院に行きました。結果は『緊急事態は回避』となり数値も正常までいきませんが、お医者さんが笑顔で対応するほど回復しました。洗礼を受ける一ヶ月の間の事です。

私の聖母マリア様への愛 = 信心がイエス様や神なる父からの恵みを受けた事が偶然じゃなく必然だったと感じたところです。私は洗礼を受けた事で、神の国の土地を渡され、そこで種をまく人になります。その土地で咲かす花は、自分のためではなく、人のための花です。『種をまいただけでは花は咲きません』『ただ水

まきをしても花は咲きません』愛を注がないと花は咲きません。私が聖母マリア様を愛するように隣人を愛さなければなりません。洗礼という恵みを受けた私は、神の国の土地で愛の種まき人となりアツバ、父のために働く事が受洗しての思いなのです。

ダウン障害を持った子からの手紙

4月のドレミの会も、ハンディーを持った子たち、その家族、スタッフ、友人らがホールいっぱい集まり楽しいひと時を過ごしました。

一人のダウンという障害を持った子が、私に手紙を持ってきました。そこには、たどたどしい字でこんな事が書かれていました。

「私はおともだちにさそわれて、ドレミの会にきました。はじめはなかなかはじめず一人でした。でも同じ会社のなかまを連れてきたり、まえからきてる子とかんノートなど始めて、だんだんともだちがふえてうれしくなりました。でも今、一人、こりつしている人がいます。私が入ったときの事を思うと仲間になりたい、仲良くなりたい！声をかけてあげたい、けど、その子をきらってる人もいます。いろんな障害を持った人が音楽が好きであつまったドレミの会だからこそ、私はひとつにしたい。ドレミの会のために役にたちたい。ゆうきを出して嫌っている人と向き合っせつとくしたい。もしかして、そのともだちをなくすかもしれない。でも私はその人を信じたい、分かってくれるはず！そして、もっともっと楽しいドレミの会にしたいです。先生どうしたらいいのでしょうか～たすけてください！」

私は彼女のひたむきさに胸が熱くなりました。会の終わりに、みんなに彼女の心配していることを優しく言い換えて話しました。彼女の顔は涙でくちやくちやになっていました。すると数人の子たちがかけより、「だいじょうぶやで！」「みんなでやろな！」と肩をたたいて慰めたのです。彼女の涙の顔は、笑顔に変わりました。

私は、改めて「この子たちには、誰にも負けないやさしさがある。障害って何なのだろう～この子たちの心はだれよりも健康なのだ！」と思いました。

来月のドレミの会は、きつともっと楽しい雰囲気になることでしよう！

ドレミの会 村嶋 伸

改訂されたミサの式次第

2015年の待降節から、新しい典礼書の総則に基づき、ミサの式次第が改訂されています。信徒の皆さんに大きくかわるのは、おもに次の5点です。

1. 司祭の席と他のミサの奉仕者の席をはっきりと分ける。
2. 各朗読の後に、沈黙の時間をとる。
3. アレルヤ唱(詠唱)の唱句は聖歌隊が歌い、会衆は「アレルヤ」の部分唱歌う。
4. 福音朗読の前に、「主に栄光」と唱えながら、額・口・胸に十字架のしるしをする。
5. 拝領前は立ったままで、拝領後に座る。なお、立つと定められている場合でも、健康上やその他の理由があれば座ることができます。

典礼委員会

デニス神父はリハビリ中

島神父からの伝言です。

デニス神父は4月17日現在、能勢電鉄平野駅前にある「協立温泉病院」(電話 072-792-1301)に入院されています。日生教会と調整して、池田教会の方は月曜日、水曜日、木曜日、土曜日にお見舞いできることになりました。ただし食べ物や花(束)は禁止です。大部屋に居られますから最大でも3名くらいまでに制限してください。

広報委員会 杉山

テゼの歌に子ども達が楽器演奏

クリスマスに引き続き、ご復活祭にも、テゼの歌に子ども達が楽器で参加しました。皆さまの歌声に加えて頂いて、一緒に復活の喜びを現すことができました。少しそのことについて、紹介させていただきます。

テゼの歌が2年ほど前から「祈りと歌」に入り、ミサの中で歌われるようになりました。テゼの歌は、いろんな楽器で支えるらしく、楽譜はあり、CDなどで耳にすることもありました。聖歌隊の本田さんから、子ども達とリコーダーやギターでいっしょにしてみたいとの提案がありました。できるかどうかは全く予測がつかなかったのですが、とりあえず子ども達に簡単に曲を聞いてもらって参加の意思を確認したところ、参加してみたいという意欲的な反応が返っ

てきました。とはいえ、教会の行事、子ども達それぞれの習い事や部活があり、思うように練習時間を確保することができず、全員揃うこともできません。

今回も2回の練習のみで当日を迎えました。貴重な練習時間だからと、あらかじめ楽譜を渡していても、「楽譜、忘れた～」、「楽器持ってきてない～」、「まだ練習してない」という声があがりますが、練習を始めることになりました。

しかし、ここからが子ども達の素晴らしいところ、短い時間で楽譜に「ミ、レ、ミ・・・」と階名を書きこむ子、それを手伝う子、パートに分かれて練習を始めて・・・しばらくすると、曲がつながって形になってゆきます。最初は音がそろわなかったり、テンポが合わなかったりするのですが、何度か練習すると、曲の感じがうかび上がってきました。感心するのは子ども達のその集中力と、お互いを思いやる心。お互いの音を聞いて、合わせようと配慮しないとなかなか合わせることができませんが、それをあつという間に成し遂げてゆきます。素晴らしい子どもたちです。また、直前に参加できなくなった子のピンチヒッターを快く引き受けてくれたり、パートの人数が足りないからと直前にお願いしたのに素直に引き受けてくれるメンバーもいました。また、見えないところで家族の方が、楽器を忘れないようにとか、家でも練習するように配慮してくださっていたことでしょう。

あのハーモニーは、子ども達が神様から頂いたそれぞれのタレントを気持ちよく差し出すことで、生み出されたんだなあと気が付きます。私たち大人が忘れてしまっていることを思い出させてくれています。

T.S.



最新の復活祭ミサでの演奏

さいころの会発足！

～ 第1回はおでんを

楽しく食べる会でした～



今年の復活祭のパーティで案内された「おでんを楽しく食べる会」が4月12日(火)にカール記念館2階集会室で開かれました。11時に集まった総勢18名は、前日から炊かれた美味しいおでんに舌鼓をうちながら、楽しくおしゃべりをしました。

前日のおでんの仕込みを手伝ってくださった方あり、当日の会場設営や食事の支度を手伝ってくださった方ありで、会は始まる前から和気藹々としたくつろいだ雰囲気でした。途中からは、幼稚園の進級式を終えた松本神父様も加わってくださり、全員が自己紹介と近況紹介をしました。毎週ミサで顔を合わせていても、その方のことを何も知らないでいたなど、このような機会をととても嬉しく思いました。

最後に、この集まりにふさわしい名前をつけたいということで、皆でアイデアを出し合った結果、「さいころの会」という名前が賛成多数で決まりました。他には「ノアの会」「エマオの会」など教会らしいネーミングも候補にあがったのですが、この会

は、堅苦しくない会、老いも若きも誰でも参加できる会、そして出たところ勝負で集まる(笑)会、あまり決め事をせずなりゆきまかせで不定期にやっていく会、という趣旨を考えて、ゆきあたりばったり出た目で運命が決まる「さいころ」が象徴として相応しいということになりました。

次の会は5月27日(金)11時～13時「おすしを楽しく食べる会」、費用は500円です。幼稚園のお迎え前の保護者の方、小さいお子様連れの方、お昼をみんなとおいしく楽しく食べたい方など、老いも若きもどなたでもご参加ください。

おすしを食べたい方は、申し込み用紙を宝塚地区 島上さんのレターケースに入れていただくか、鋤納までご連絡ください。

25年前、帰韓した信者さんが 池田教会を訪問

デニス神父が市立池田病院に入院していたころのことです。30年ほど前、池田教会に在籍していた二人の信者さんが、韓国から来阪中に、池田教会に見舞いのランの鉢を届けるべく訪ねて来ました。

連絡を受けて、迎えた池田教会の信者が2人との再会を喜び、2人に代わって原稿を提出しました。

広報委員会

去る2月15日、韓国から元阪大留学生の許晃會さんと李春姫さんご夫妻(2人は大学教授)が25年ぶりに池田教会を訪問されました。聖堂や小聖堂に「懐かしい」とおっしゃいました。

李さんは、30年前、デニス神父さんから、畑中さんを代母に受洗されました。入院中のデニス神父さんにお会いできず、残念そうでした。

その当時、石橋地区集会は主に三竹さんや林さんのお宅でありました。婦人たちが李さんに質問。「お国には、儒教の国だから、嫁姑の問題はない

のでしょうか?」、「ありますよ。万国共通ですよ。」と話が弾みました。一方、デニス神父さんのお膝では幼かった大川さんや新免さん、三竹さんや林さんのお子様方が「昔々、三匹の子豚がいました-----。」とデニス神父さんのオリジナルな話に耳を傾けていました。

その頃の素朴な時代の信者さんの訪問でした。

ベルナデッタ



中高生と青年との交流は刺激的？

北摂地区中高生交流会に参加して

4月2日に北摂地区青少年活動委員会主催の北摂地区中高生交流会がカトリック茨木教会で行われました。交流会の38名の総参加者中、池田教会からの参加者は中高生2名とリーダー3名でした。グループに分かれて行った自己紹介とレクリエーションを通して、まずは、リラックス。その後、一人ひとりにあたえられた聖霊の賜物について分かち合いました。他教会の大きい活動的な青年たちとの交流は、特に、中高生たちの良い体験になったようです。

H.K.



青年会の参加者募集

こんにちは！私たちは昨年10月に発足した青年会です。

といっても、昨年度は手探りの中これといった活動ができず、今年の5月から改めて本格始動というような感じです。

青年会の目的は、教会に来てはいるけれど、私たちはいったい何を信じているのだろうか？日々の生活の中でキリスト者として生きるためには、どうすればよいのだろうか？というようなことを松本神父様ご指導のもと、青年同士で「YOUCAT」という本を使い、正直な思いを分かち合うというものです。また、日曜学校のお手伝いも少しずつできたらなと思っています。

といっても、参加者は多い時で4人と少し寂しい状況です…。「YOUCAT」という本も難しいものではなく、カトリックの教えを青年向けにQ&A形式で説明した、挿絵もたくさんある、分かりやすい本です。ですので、硬くならず、緊張せずに、

気軽に、第1土曜日の夕方6時半ごろカール記念館を覗きに来てください！

対象者 大学生から35歳くらいまで

スケジュール

17:30 夕食準備

18:30 夕食

19:00 『YOUCAT』分かち合い

20:00 キャンプ、遠足、クリスマス会

など日曜学校イベントの相談

20:30 振り返り、解散

参加費 300円

私達青年は、大学、仕事と多忙の中での活動ですが、みんなで無理なく少しずつ教会の一員となれたらと思っています。少しでも興味をお持ちの方、子供達が大好きな方、ぜひ一緒に活動してみませんか？

ご相談やお問い合わせは

blackthunderbird76@gmail.com まで。

お待ちしております。本当に、本当に待っています！
次回5月7日の夕食は焼きそばの予定です！

青少年育成委員会・青年会代表 閑歳浩一

さわやかな出会い

大阪カナの会のパーティー

■場所 夙川教会

■日時 8月14日(日) 14時～16時

気軽な平服で。年齢は全然こだわりません。
奮って参加してください。

昨年の参加者は55人でした(男性は24人、女性は31人)。最高齢は男性59歳、女性56歳でした。このうち、再会を果たした組や正式な見合いを決めた組が出ています。

申し込みは写真を添えて「カナの会」委員までに。

締め切りは7月3日(日)です。

表紙の大江天主堂について

住所：熊本県天草市天草町大江1782

天草のキリシタンは、徳川幕府の禁教時代にも「かくれキリシタン」として、ひそかに信仰を続けましたが、明治に入り禁制の高札が撤去され、再び布教が行われました。

フランス人ガルニエ神父は、明治25年32歳でこの地を訪れ、昭和16年82歳でなくなるまでの49年間布教に努め、天草言葉を巧みに使いこなし、村人からは「パアテルさん」と呼ばれ慕われていました。

現在の天主堂は、神父が信徒と協力して、昭和8年に完成させたものです。明治40年、北原白秋等の5名のいわゆる「五足の靴」の旅は、「パアテルさん」に会うのが主な目的とあり、天主堂を訪れガルニエ神父に会っています。

神崎



天主堂の内部

黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家から

■ 日帰り黙想会

5月12日(木) 10:00～15:30

指導：ウオード神父

5月13日(金) 10:00～15:30

指導：山内十束神父

■ 週末黙想会

5月28日(土)17:00～29日(日) 15:30

指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」(☎0797(84)3111)まで。



編集後記

『からしだね』が新体制に移って二ヶ月。新聞はこれまでも「世話役」を中心とし、各メンバーが力をあわせて編集作業をつづけてきた。平等に分担することが、その性質上できない仕事である。だから中核として働くことは楽でない。時間と手間と神経が求められる。疲れ果てた中核が倒れることのないように、軌道をまわる惑星よろしく各メンバーは周囲を移動しながら支える。委員会の外側に教会の全員が同心円を描きながら協力してくださることを期待して…

直